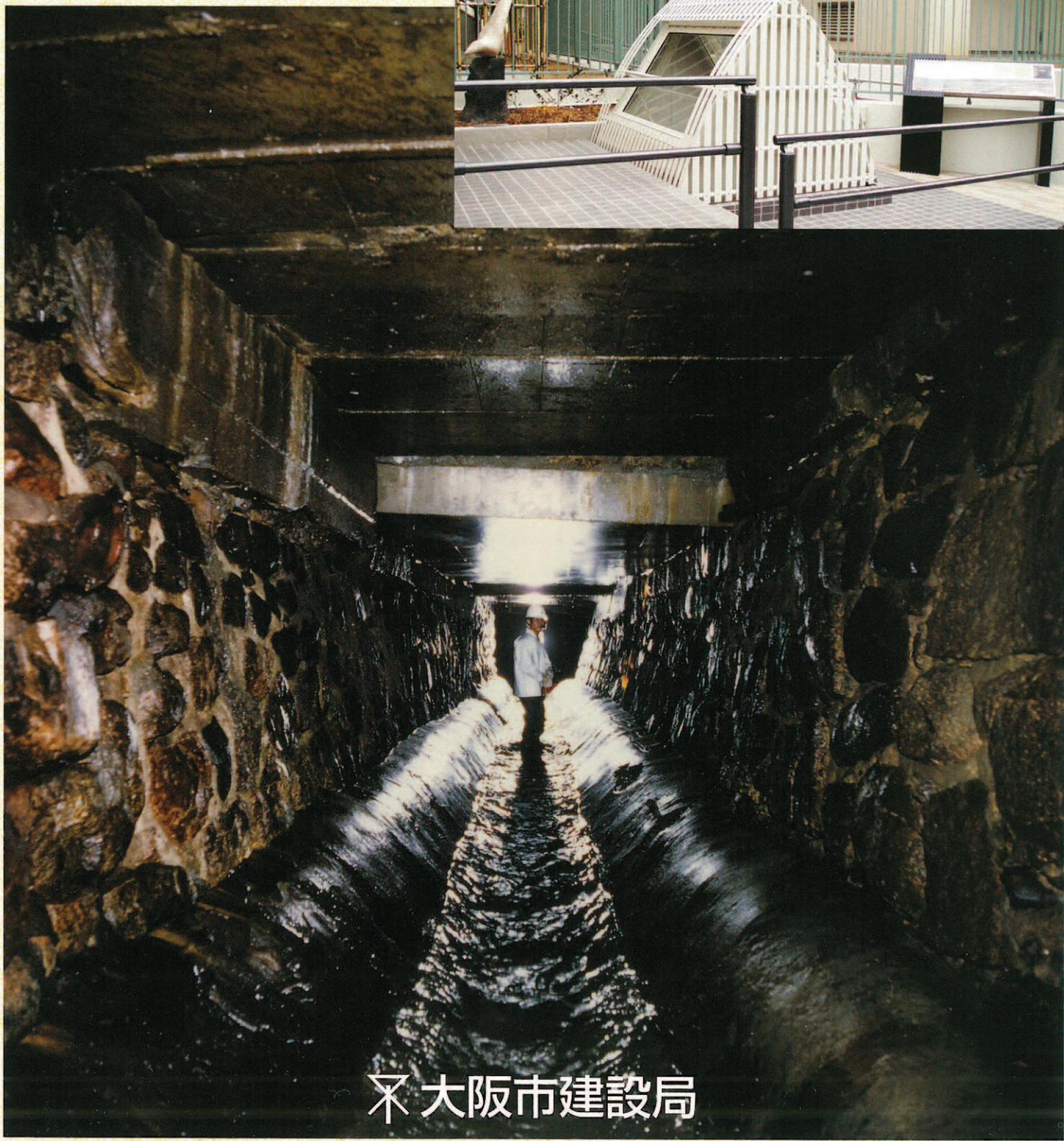


太閤(背割)下水

▼太閤(背割)下水内部

太閤(背割)下水見学施設▶



大阪市建設局

◎大阪のまちづくりと下水道

大阪は、わが国最初の都市である難波宮以来、千数百年に及ぶ都市づくりの歴史を持っています。

なかでも天正11年(1583年)から始まった豊臣秀吉の大坂城築城に伴うまちづくりでは、内町や船場地区(今の中区)に現在の大坂の基礎となる町が形成されました。

このまちづくりでは、道路の整備とともに、町屋から排出される下水を排除するための下水溝が建設されました。

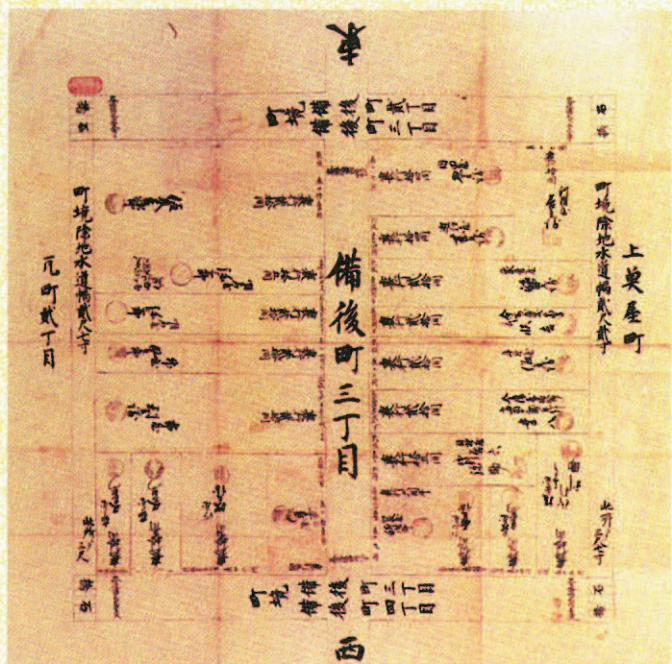
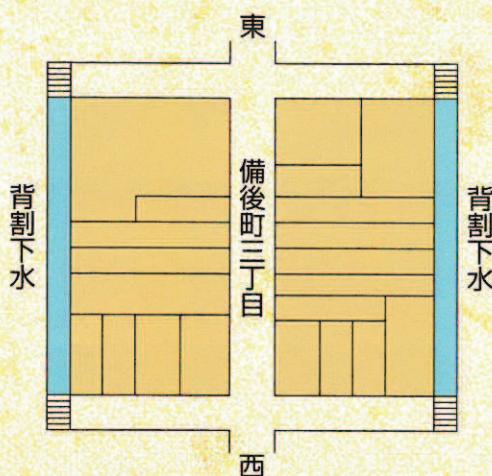
道路と下水道を備えたまちづくりのアイディアは、わが国の都市計画の歴史において画期的なものとして高く評価されています。

大阪の町は、その後も江戸時代を通じて拡張・整備されていきますが、下水道も大阪に欠くことのできない基盤施設として、引き続き建設・改良が行われ、大阪市政が発足した明治22年(1889年)には、市内の下水溝の総延長はおよそ350キロメートルに及んでいました。

■大阪市の地盤高図



■町割と太閤(背割)下水模型図



◎太閤秀吉と太閤(背割)下水

■ 太閤(背割)下水

豊臣秀吉の大坂のまちづくりにあたっては、土地が低湿であったため、堀川と呼ばれる人工の運河を開削し、そこから出た土砂を用いて土地のかさあげを行い、町屋の敷地としました。

慶長3年（1598年）に整備された船場地区では、大阪城に向う東西路を軸に、碁盤の目状に整然と区画され、その道路に面して間口を持つ建物の裏側、すなわち建物が背中合わせになっているところに下水溝が作られていました。このように建物と建物の背を割って作られていたことから「背割下水（せわりげすい）」と呼ばれ、当時の船場地区は、この背割下水にはさまれたほぼ42間（76.4m）四方の区画が町割りの基本となっていました。また、太閤秀吉にちなんで「太閤下水（たいこうげすい）」とも呼ばれています。

太閤(背割)下水は、通常幅1尺（30.3cm）から4尺（1.2m）、大きなものは1間（1.8m）から2間（3.6m）に及ぶものもあり、工法は、初期には素掘りのものでしたが、後には石垣で護岸が施されています。この下水溝は開渠（※）であったので、道路の横断部には石の蓋が置かれています。

こうして、市中の下水は、太閤(背割)下水に集められ、おおむね東西の横堀川に排水されていました。

※開渠：上部に蓋のない水路のこと

■ 三郷町絵図（大阪城天守閣蔵）



■ 太閤(背割)下水の維持管理

江戸時代には、できあがった下水溝の維持管理も各町内の町衆の手で行なわれていました。

下水溝の清掃は、「水道浚え（さらえ）」と呼ばれ、例年春から梅雨期までに、隣接する町が相談しあって日を決め、同時に行っていました。

また、下水溝の補修も町衆が寄って費用を出し合い行なっていたことが文献にも残されています。



■ 大水道普請入用帳

現存する太閤（背割）下水の築造時期について

中央区で実施した発掘調査により、現存する太閤(背割)下水の石組みが豊臣時代に遡るかどうかは確認されておりませんが、江戸時代後期に築造されたことは判明しています。

また、慶安1年から万治1年（1648～1658年）の「三郷町絵図」には、中央区南大江小学校付近に水路

が描かれており、江戸時代前期にはすでに水路が存在していたことがわかっています。

このことから江戸時代前期に素掘りの水路が掘られ、江戸時代後期に同じ位置に石組溝が築造されたと判断されています。

◎近代下水道事業と太閤(背割)下水

明治に入ると、工業の発達、人口の増大など大阪市は一層の発展をみました。それに伴う都市施設の整備は著しく立ち遅れています。

特に、明治19年(1886年)と23年(1890年)には、コレラの大流行により多数の犠牲者が出たため、上水道の創設、下水道の整備が強く求められました。

このため、明治25年(1892年)に上水道創設事業に着手すると共に、明治27年(1894年)12月には、最初の近代下水道事業である中央部下水道改良事業を開始しました。

この事業では、それまでの太閤(背割)下水の溝床にコンクリートを打ち、U字型とし、その表面にモルタルを上塗りして下水の流れがよくなるように改造するとともに、開渠であったものを石蓋で、暗渠(※)化しました。

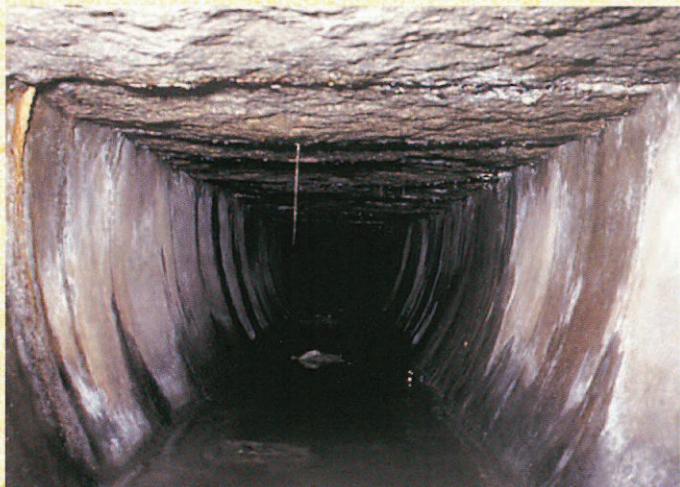
中央部改良事業は、総事業費104万円(当時の本市の単年度決算額の約6倍)を使い、市内約120キロメートルにわたって太閤(背割)下水の改良を行ないました。

先人の貴重な遺産である太閤(背割)下水は、こうした改良を加えて現在でも使用されており、その規模は中央区・西区などで約20キロメートルとなっています。

大阪市では明治以降も、下水道整備をつねに市政の重点施策として積極的に進め、今日では、市内のほぼ全域に下水道が普及しています。

※暗渠：上部に蓋がある、地下に設けるなど外から見えないようにした水路

■ 改良後の太閤(背割)下水



◎太閤(背割)下水の大都市指定文化財への指定

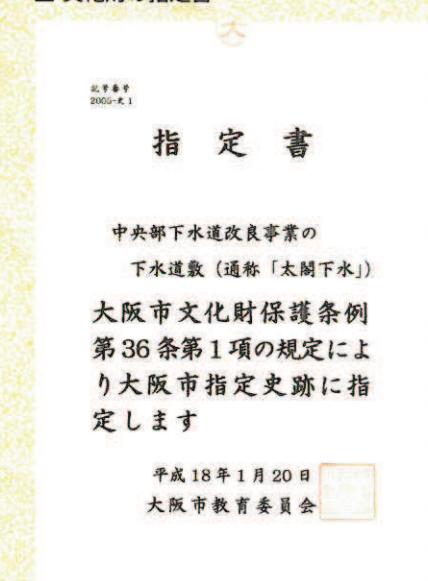
近世に造られた下水道が、改良されながらも現在まで使われ続けている事例は全国的に見てもほとんどなく、大阪の都市史を考える上でも貴重な資料です。このため、中央区・西区などで今も使われている太閤(背割)下水約20キロメートルのうち、将来にわたって保存が可能な約7キロメートルを「史跡」として平成17年度に大阪市の文化財に指定しました。

【名称】

中央部下水道改良事業の下水道敷 (通称：太閤下水)

詳しくは大阪市教育委員会事務局ホームページをご覧ください

■ 文化財の指定書



◎太閤(背割)下水の見学施設(南大江小学校西側)

中央区農人橋に現存する太閤(背割)下水は、元禄時代の古地図にも描かれているもので、付近の下水を地表の勾配に合わせて自然に流し、東横堀川に排水していました。(現在は、津守下水処理場に送って処理しています。)

この太閤(背割)下水は、内りで幅・高さとも約2メートルあり、高さ7段、横2列にわたって石積みされています。明治の中央部下水道改良事業によって、改良が加えられ、現存する最大の太閤(背割)下水として、今日もその役割を果たしています。

昭和60年4月には、市立南大江小学校(中央区農人橋1-3-3)西側に見学用施設を設置しましたが、平成17年度の本市文化財指定を契機として、より多くの方に見学していただけるよう平成18年度にリニューアル工事を実施しました。これにより、地下施設に入ることなく地上に設置したのぞき窓から内部の石組みを自由に見学することができるようになりました。



■ 見学用地上施設

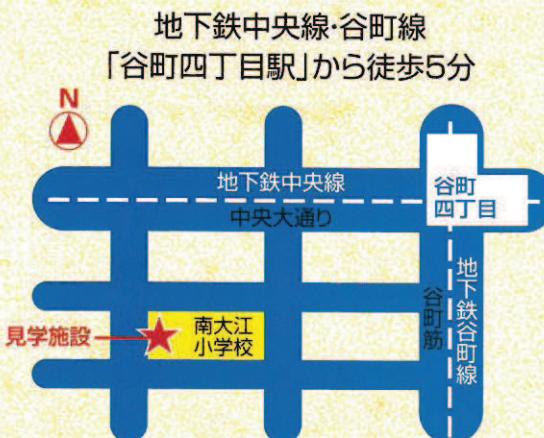


■ 見学用地下施設

所在 地

大阪市中央区農人橋1丁目3番3号
(市立南大江小学校 西側)

交 通



見学無料

なお、地下施設の見学は、
(一財)都市技術センターまで
お問い合わせください。

TEL 06-4963-2092
FAX 06-4963-2095



広報の取り組み

大阪市では、日頃意識することのない下水道について理解・関心を深めてもらうため、下水道の役割や大阪市の下水道事業について、わかりやすく広く情報発信しています。

下水道科学館



大阪市此花区高見1丁目2番53号

【開館時間】午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

【休館日】毎週水曜日(水曜日が休日の場合は翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)

【入館料】無料

公式SNS



大阪市下水道科学館
@ossmofficial

公式HP

<https://www.osaka-ssm.jp/>



マンホールカード

下水道について楽しみながら幅広く関心を持っていただくためのカード型パンフレットで、下水道広報プラットホームが下水道を管理する自治体等と作っています。大阪市のカードは平成6年に下水道事業着手100周年を記念して市民公募で決定した大阪城デザインと大阪市出身の漫画家ユニット「ゆでたまご」先生の作品であるキン肉マンデザインの2種類です。

配布場所

おおさかATCグリーンエコプラザ(大阪城デザイン)
大阪市下水道科学館(キン肉マンデザイン)



△下水道部△
公式SNS



市民のみなさんへおねがい

わたしたちのちょっとした心づかいが下水道を守ります

下水道を大切に

家中
では…



食用油などは
流さないで



水洗トイレに
トイレットペーパー
以外を流さないで



単体
ディスポーザーは
使わないで

家のまわり
では…



川にごみを
捨てないで



ごみや砂などを
ますに
掃き込まないで



ますを
ふさがないで

大雨に備えて

- 大雨の時には大量の水を流さないで
- 水害ハザードマップを確認しましょう
- 気象情報に注意しましょう